

名 称 所 在	用 途 (令別表)	発 生 日 時 等	構 造 ・ 階 層 面 積	焼 損 程 度 (焼 損 面 積 延 面 積)	死 傷 者
姫路市国際会館 兵庫県姫路市	遊技場 (16)イ	昭和46年1月1日	耐火 %	全・㊟・部・小	死者 2名
		出火22時00分ころ 覚知22時10分 覚知別 報知電話 鎮火23時50分	建 973.1m ² 延 3,200.3m ²	1,844m ² (58%)	傷者 0名 ()

I 火災概要								
① 概 要	元旦の夜、耐火造4階建の会館から出火し、2・3・4階延1,844m ² を焼損し、死者2名を出した火災である。本火災は耐火建物ではあったが、内部に防火区画が全く無く内装も全て可燃材で仕上げられ、階段は全て開放階段である等ハード的脆さと、防火管理の不徹底にみられるソフト的な欠陥により火災を拡大させ犠牲を出すにいたった事例である。							
② 階 別 状 況	階	床面積 m ²	焼損床面積 m ²	用途(売場)	在館者	死 者	避難設備等	消防用設備等
	R	27.0	1,844	機 械 室			屋内開放 階段 (1F~4F) 1箇所 開放ら線 階段 (1F~3F) 2箇所 (1F~2F) 1箇所	③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧
	4	244.4		従 業 員 寮 機 械 置 場	3			
	3	977.9		ピリヤード 事 務 所 機 械 室	4	2		
	②	977.9		ダンスホール マージャン 卓 球 場				
	1	973.1		パ チ ン コ				
	合計	3,200.3	1,844		7	2		
③ 出 火 場 所	(階、室、部位、可燃物状況、居室・非居室、在・不在) 2階卓球場の東北隅、ら線階段横にあったベンチ・ゴミ収納箱付近から出火 ○ら線階段には、雑品の紙類・木片・ゴム類が集積されていた。 ○内装は天井が木造下地テックス・壁の大半は合板仕上、床は厚手合板張りであった。				④ 出 火 原 因	不 明 2階ら線階段横にあったベンチ・ゴミ収納箱付近から出火しており当日、客の出入状況等から「たばこ」によるものと推定されるが断定するまでにはいたっていない。		

⑤ 火 災 の 延 焼 経 路 等	<div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="text-align: center;">(出火部位) 2階卓球場隅、ベンチ、ゴミ箱付近</div> <div style="text-align: center;">(出火室の拡大) 集積されていた可燃物</div> <div style="text-align: center;">(上階への拡大) ら線階段</div> <div style="text-align: center;">(上階への拡大) ・屋内開放階段 ・他のら線階段 (他室への拡大) 可燃材使用の天井・間仕切壁</div> </div>			
	<p>出火場所近くの可燃物が集積してあった、ら線階段を経て3階へ延焼、また、2階・3階とも水平方向に主として天井を伝わって延焼拡大しさらに主階段や別のら線階段に至った炎は、これを通じて上階の3階・4階へと拡大していった。</p>			
<p>○ 延焼拡大した主な理由</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 出火場所付近には可燃物が多く集積されており、火勢の助長に十分な燃え草があった。 ○ 出火場所直近に上階に通ずる開放ら線階段があった。 <p>○ 煙の伝播経路</p> <p>屋内開放ら線階段から伝播、ある程度火面が広がってからは、屋内開放階段や他のら線階段からも伝播していった。</p>				
II 火災建物概要				
① 建築	着工・竣工又は主たる改築等 () 昭和 年 月 日 () 昭和 年 月 日			
管 理 状 況	② 縦 穴 の 状 況		③ 防 火 管 理 状 況	
	階 段 <input checked="" type="checkbox"/> ダクトスペース <input type="checkbox"/> エレベーター <input checked="" type="checkbox"/> パイプシャフト <input type="checkbox"/> エスカレーター <input type="checkbox"/> その他() <input type="checkbox"/>		消防計画もなく、諸訓練や消防設備の点検も行われず極めて悪い状況であった。	
階段は、中央部付近に開放式の主階段があり、他に屋内に開放式のら線階段が1階から3階まで通じているもの2系統、2階までのもの1系統がある。				
管 理 状 況	④ 防 火 区 画 等		⑤ 消 防 用 設 備 等	
	<ul style="list-style-type: none"> ○ 全館防火区画はなく、1階から4階まで内部空間は階段を通じて連続一体となっていた。 ○ 鉄骨コンクリート造部分の梁はI型鋼を露出させてあり、耐火被覆は柱だけであった。 		自動火災報知設備はベル停止状態になっていた。	

III 火災後の行動						
① 発 見 状 況	<p>○発見者 (従業員) ○発見の動機 (煙) ○発見後の行動(上階に上がり大声で知らせる)</p> <hr/> <p>当日、営業したのは、2階・3階のみで午後9時40分頃閉店し従業員4名が3階事務室で入金整理をし、帰宅すべく主階段を降りかかったとき煙で火災に気付き、2階北東寄りの卓球場が燃えているのを発見、1名は3階・4階を駆け上がって大声で知らせている。他の3名は発見したまま避難した。</p>					
② 通 報 状 況	<p>通 報 した <input checked="" type="checkbox"/> (従業員) 出火後約(10)分 しない <input type="checkbox"/></p> <hr/> <p>上記の火災を発見した従業員のうち1名が3階・4階に駆け上がって大声で知らせるとともに3階事務室から通報した。その後避難している。</p>					
③ 初 期 消 火 状 況	<table border="1"> <tr> <td style="writing-mode: vertical-rl;">消 火 し た</td> <td> 成功 <input type="checkbox"/> 失敗 <input type="checkbox"/> ○消火時期 <input type="checkbox"/> ○消火困難性 <input type="checkbox"/> ○消火方法 <input type="checkbox"/> </td> <td rowspan="2" style="vertical-align: top;"> (理由又は状況) 火災を確認した従業員達は、あわててしまい初期消火もせず、火災拡大にともない避難している。 </td> </tr> <tr> <td style="writing-mode: vertical-rl;">消 火 し ない</td> <td> ○消火時期 <input type="checkbox"/> ○消火困難性 <input type="checkbox"/> ○消火方法 <input type="checkbox"/> ○その他 <input checked="" type="checkbox"/> </td> </tr> </table>	消 火 し た	成功 <input type="checkbox"/> 失敗 <input type="checkbox"/> ○消火時期 <input type="checkbox"/> ○消火困難性 <input type="checkbox"/> ○消火方法 <input type="checkbox"/>	(理由又は状況) 火災を確認した従業員達は、あわててしまい初期消火もせず、火災拡大にともない避難している。	消 火 し ない	○消火時期 <input type="checkbox"/> ○消火困難性 <input type="checkbox"/> ○消火方法 <input type="checkbox"/> ○その他 <input checked="" type="checkbox"/>
消 火 し た	成功 <input type="checkbox"/> 失敗 <input type="checkbox"/> ○消火時期 <input type="checkbox"/> ○消火困難性 <input type="checkbox"/> ○消火方法 <input type="checkbox"/>	(理由又は状況) 火災を確認した従業員達は、あわててしまい初期消火もせず、火災拡大にともない避難している。				
消 火 し ない	○消火時期 <input type="checkbox"/> ○消火困難性 <input type="checkbox"/> ○消火方法 <input type="checkbox"/> ○その他 <input checked="" type="checkbox"/>					
④ 消 火 活 動 概 要	<p>(消防上の支障・困難性等)</p> <p>消防隊到着時、2階の窓から炎と黒煙が噴き出しており、1階から進入を図ったが濃煙熱気と火炎のため2階に通ずる主階段を上ることができず、消火は北側の路上や周囲の建物屋上などから計22口の筒先で窓から注水したが、火は3階・4階に拡大し、全面火災の様相となった。</p>					

	避難方法	避難上支障事項
⑤ 避難 状況	○階段を利用 <input checked="" type="checkbox"/> (4 人) ○エレベーター、エスカレータ利用 <input type="checkbox"/> (人) ○避難器具を利用 <input type="checkbox"/> (人) ○窓、開口部から直接地上へ <input type="checkbox"/> (人) ○救助 <input checked="" type="checkbox"/> (1 人) ○その他() <input type="checkbox"/> (人)	○無窓 <input type="checkbox"/> ○開口部の格子等 <input type="checkbox"/> ○非常口(出入口)等の施錠 <input type="checkbox"/> ○警報設備 <input type="checkbox"/> (管理不良, 機能不良, 未設置) ○停電 <input type="checkbox"/> ○その他 <input type="checkbox"/>
⑥ 死者 の 状況	健康人 2名 (泥酔者 名) 要保護者 名 [乳幼児 名 高齢者 名 身体不 自由者 名 病人 名]	避難上支障となった事項 ○無窓 <input type="checkbox"/> ○開口部の格子等 <input type="checkbox"/> ○非常口(出入口)等の施錠 <input type="checkbox"/> ○警報設備 <input type="checkbox"/> (管理不良, 機能不良, 未設置) ○停電 <input type="checkbox"/> ○その他 <input type="checkbox"/>
○火災を発見した従業員4名は大声で叫んで火事を知らせたり、消防へ通報した後、階段から避難している。 ○4階寮にいた男1名は「火事だ」の叫び声を聞いて3階へ降りかけたが、階段を上昇してくる煙に耐えられず、屋上へ駆け上がって救助を待った。発見した消防隊は西隣りの建物屋上から消火用ホースを、テレビのフィーダー線を利用して引き上げさせ、ホースを屋上ネットの支柱に結着して降りるよう指示し救出に成功した。		
IV 問題点・教訓等		
1. 各階段は、火煙伝播阻止のうえからも閉鎖式の避難階段とすべきである。また、防火戸も煙感知器連動等の自閉式とする必要がある。 2. 4階を従業員寮としている以上、主階段は直通階段とすべきである。 3. 自動火災報知設備がベル停止の状態になっており、しかも受信機のある部屋が無人であったため火災の発見が遅れたうえ地区ベル等の鳴動による館内報知が出来なかった。 4. 普段の防火管理に対する認識が低く、火災に遭遇したときの心構えもなかったため、初期の段階で有効適切な行動がとれなかった。 5. 防火区画がなかったうえ、内装制限もされておらず、間仕切壁等も合板が使用されていた。 6. 火気等の巡回点検は実施されておらず、階段付近には可燃物が集積してあった。		

